



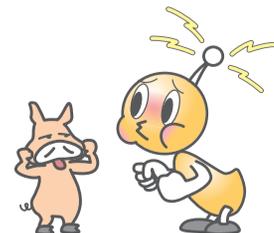
発行:市川市
編集:企画部広報担当
〒272-8501
市川市八幡1-1-1
☎047-334-1111
FAX047-336-2300
ホームページ
http://www.city.ichikawa.lg.jp/

2月7日
2009年(平成21年)
毎月第1~第4土曜日発行
No.1317

市川市の人口 1月1日現在
●人口…473,055人
(前月比 -363人)
男242,322人/女230,733人
●世帯…216,338
(前月比 -432)

今週号の紙面から

- 特集:市の刊行物
役立つ 学ぶ 楽しむ
暮らしの情報
がいっぱい
……………4-5面
- 野菜や花づくりに挑戦
市民農園の利用者募集
……………2面(地域・園芸)
- 講演会「もう一度
考えたいことばの力」
……………2面(教養)
- 市川市民まちづくり債
利率が0.75%に決定
……………3面(地域・財政)
- 親と子のための
メタボ予防講座
……………6面(健康)
- イベントいろいろ!
「映文フェスタ」
……………8面(催し)
- 「にらめっこおびしゃ」
……………8面(フォト・ニュース)



広報いちかわ案内役 こういちくん®

暮らしを守り続ける目と、郷土魂を宿す目。

巧みに操られるわらが頭となり、胴体となり、にらみを利かせる大きな目が付けられて、勇壮な姿を現していく4体の大蛇。御霊入れの御神酒をたっぷり飲むと二年間、国府台の東西南北の辻にある木の上にとどまり、霊力で人々を災いや病などから守ります。市の無形民俗文化財に指定され、地元の保存会の方たちによって継承されているこの「辻切り」に、今年も大勢の見物人が集まりました。

毎年1月17日に国府台天満宮で行なわれる「辻切り」は、古代京都の宮廷で四辻に神を祭り、悪霊や悪疫の侵入を防いだとされる「道饗祭(みちあえのまり)」が元となつて、民間に広まったものだといわれています。かつては市内数カ所で見られましたが、ほ



▲目に見えない敵をしっかり追い払ってくれるように、たっぷり御神酒を飲ませて。

▶大きな目の中は、一昨年の大蛇を供養した際のわら灰。
◀手と足を使って丁寧に編み上げられていく頭。

ほ昔のままの形で伝えられているのは、国府台の「辻切り」だけとなってしまいました。その地域の貴重な財産に見入り、熱心に作り方を教わる子どもたち。そこには、心を通わせながら楽しさを分かち合う時のなかで、生まれ育った土地への愛着を深め、世代を超えて絆を強めていく、古き良き時代の地域社会の姿がありました。核家族化や都市化などによって人間関係が希薄になったといわれる昨今、地域に根付いた伝統行事は、心豊かな暮らしを送る上で重要な役割りを果たしてくれるに違いありません。八方に目を光らせる頼もしい4体の大蛇はこれから、そこで出会う人々を笑顔にしてくれることでしょう。



この街が好き29
人・風・光

国府台の眼力。

“大蛇”を探しに出掛けませんか



西 国府台3-13



東 国府台5-16



南 国府台3-1

北 国府台3-11